

第4 放射性廃棄物の管理

放射性気体廃棄物及び放射性液体廃棄物については、旧原子力安全委員会の指針により、放出管理目標値を定め、これを超えないように努めることになっている。

放射性気体及び液体廃棄物は、発電所内の廃棄物処理装置で適切に処理され、放射性物質の濃度を測定し安全であることを確認した上で大気や海へ放出されており、これらの放出量は、年間放出管理目標値及び基準値を下回っている。

また、放射性固体廃棄物の累積保管量は、200リットルドラム缶相当で27,580本（令和6年3月末）であり、設備保管容量の約75%である。

1 放射性気体廃棄物の放出量

単位：Bq^{ベクレル}

年度	S58	59	60	61	62	63	H元	2	3	4	5	6	7	8
放射性希ガス	N.D.	1.7×10 ¹⁰	6.7×10 ¹⁰	4.1×10 ¹⁰	4.1×10 ¹⁰	3.6×10 ¹⁰	4.0×10 ¹⁰	5.9×10 ¹⁰	3.2×10 ¹⁰	3.8×10 ¹⁰	3.0×10 ¹⁰	3.2×10 ¹⁰	3.9×10 ¹⁰	3.7×10 ¹⁰
放射性ヨウ素	N.D.	N.D.	N.D.	*1 1.1×10 ⁷	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.

年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
放射性希ガス	3.4×10 ¹⁰	3.7×10 ¹⁰	6.7×10 ¹⁰	3.1×10 ¹⁰	1.5×10 ¹⁰	1.6×10 ¹⁰	3.1×10 ¹⁰	4.4×10 ¹⁰	2.7×10 ¹⁰	1.6×10 ¹⁰	1.5×10 ¹⁰	1.3×10 ¹⁰	0.9×10 ¹⁰	1.2×10 ¹⁰
放射性ヨウ素	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.

年度	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2	3	4	5	年間放出管理目標値
放射性希ガス	0.9×10 ¹⁰	3.5×10 ⁹	1.5×10 ⁹	4.8×10 ⁸	N.D.	3.1×10 ⁸	8.1×10 ⁸	1.1×10 ⁹	1.0×10 ¹⁰	6.0×10 ⁹	4.3×10 ⁹	1.5×10 ⁹	1.5×10 ⁹	1.7×10 ¹⁵
放射性ヨウ素	*2 1.6×10 ⁵	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	2.1×10 ⁶	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	6.2×10 ¹⁰

*1 チェルノブイリ原子力発電所事故の影響と考えられる。

*2 福島第一原子力発電所事故の影響と考えられる。

2 放射性液体廃棄物の放出量

単位：Bq^{ベクレル}

年度	S58	59	60	61	62	63	H元	2	3	4	5	6	7	8
トリウム以外	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
トリウム	3.1×10 ¹²	1.3×10 ¹³	2.0×10 ¹³	2.7×10 ¹³	3.4×10 ¹³	4.1×10 ¹³	3.8×10 ¹³	3.7×10 ¹³	3.6×10 ¹³	4.8×10 ¹³	3.9×10 ¹³	3.1×10 ¹³	4.2×10 ¹³	5.0×10 ¹³

年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
トリウム以外	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.
トリウム	3.6×10 ¹³	3.3×10 ¹³	3.5×10 ¹³	4.3×10 ¹³	4.2×10 ¹³	3.2×10 ¹³	3.8×10 ¹³	5.1×10 ¹³	4.8×10 ¹³	3.5×10 ¹³	3.8×10 ¹³	5.3×10 ¹³	5.0×10 ¹³	3.0×10 ¹³

年度	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2	3	4	5	年間放出管理目標値
トリウム以外	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	7.4×10 ¹⁰
トリウム	3.7×10 ¹³	1.0×10 ¹²	2.1×10 ¹¹	2.1×10 ¹¹	8.5×10 ¹²	6.5×10 ¹³	4.6×10 ¹³	3.4×10 ¹³	5.5×10 ¹³	1.4×10 ¹³	4.3×10 ¹³	3.7×10 ¹³	3.6×10 ¹³	1.1×10 ¹⁴ 放出管理基準

[注] 1. トリチウムについては、「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に対する評価指針」により、被ばく線量が非常に低いとされていることから、全国的に放出管理基準値を定めて管理している。

2. 放出量（Bq）は、排気（排水）中の放射性物質の濃度（Bq/cm³）に、排気（排水）量（cm³）を乗じて算出。なお、放射性物質の濃度が検出限界未満の場合、「N.D.」と表示。

3 放射性固体廃棄物の発生量

年 度		S58	59	60	61	62	63	H 元	2	3	4	5	6	7
固体廃棄物 (本)	発生量	82	299	541	805	865	997	517	380	1,031	1,124	730	640	967
	焼却等減容量	6	0	309	432	268	238	428	193	90	311	273	336	142
	累 積 保管量	76	375	607	980	1,577	2,336	2,425	2,612	3,553	4,366	4,823	5,127	5,952

年 度		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
固体廃棄物 (本)	発生量	778	447	880	1,268	1,489	549	769	1,170	1,005	1,039	1,504	2,580	3,485
	焼却等減容量	118	204	194	343	266	463	394	147	438	1,031	1,301	649	228
	累 積 保管量	6,612	6,855	7,541	8,466	9,689	9,775	10,150	11,173	11,740	11,748	11,951	13,882	17,139

年 度		21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R 元	2	3
固体廃棄物 (本)	発生量	1,533	1,541	2,112	723	1,514	2,244	1,434	2,970	2,027	3,441	2,807	2,784	1,736
	焼却等減容量	594	642	771	610	460	676	795	1,840	2,235	1,780	1,779	2,214	1,842
	累 積 保管量	18,078	18,977	20,318	20,431	21,485	23,053	23,692	24,822	24,614	26,275	27,303	27,873	27,767

年 度		4	5
固体廃棄物 (本)	発生量	1,565	1,774
	焼却等減容量	1,809	1,717
	累 積 保管量	27,523	27,580

[注] 1. 放射性固体廃棄物の発生量, 焼却等減容量, 累積保管量は, 200リットルドラム缶相当本数である。

2. 設備保管容量: 200リットルドラム缶相当本数で約37,000本